

2024.11.15
東京学芸大学国語教育学会
2024年度 第5回例会
【研究発表】

アーギュメントスキルに着目した国語科・理科の
教科横断的な学習プログラム開発
～構造と可視化に着目した実践を通して～

東京学芸大学附属世田谷中学校
渡邊 裕 (国語科:wtnb530@u-gakugei.ac.jp)



【発表内容】

- ◆ はじめに：研究の目的、方法と内容
- ◆ 研究の目的、方法と内容
- ◆ 授業の実際
- ◆ 各課題の整理・分析
- ◆ 研究のまとめと課題

はじめに：研究の目的

東京学芸大学特別開発プロジェクト（教科横断型研究）

指導と評価の一体化に対応した 理科・国語科を教科横断的に探究する学習プログラムの開発

理科の学習場面での課題意識
国語の学習場面での課題意識

- ・高田 太樹（附属世田谷中学校・理科）
- ・中村 純子（人文社会科学系）
- ・中西 史（自然科学系）
- ・渡邊 裕（附属世田谷中学校・国語科）
- ・浅井 悦代（附属国際中等教育学校・国語科）
- ・廣瀬 充（附属国際中等教育学校・国語科）
- ・鮫島 朋美（附属国際中等教育学校・理科）

◆各教科・領域で蓄積された「実践知」や「知の体系」を踏まえ、
どのように効果的な接続を検討することができるか

汎用的な
資質・能力の育成

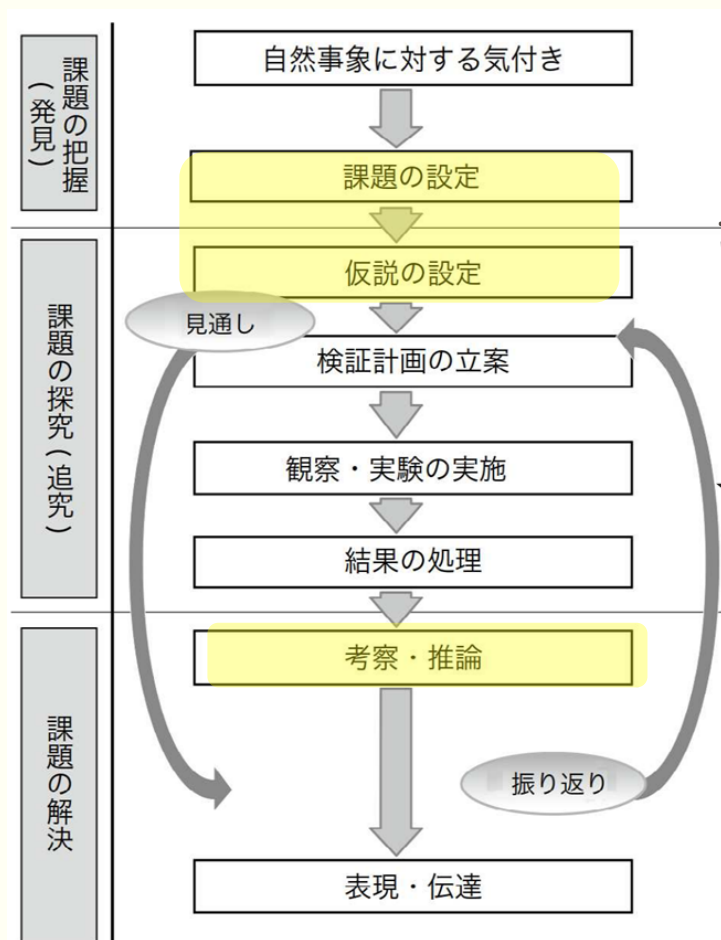
それぞれの領域の特性を踏まえた横断的な
取り組みを蓄積・共有していくことでの相乗効果への期待

- 1) 土台となるモデルを活用した指導方法の実践検討
- 2) 実践をもとにした横断的プログラム開発過程の構造化

はじめに：研究の目的、方法と内容

「探究の過程」にそった学習の必要性の増加

思考力を育成するための探究型学習



気付き・既習事項

事実

課題・仮説の設定

根拠

を示すことが必要不可欠

主張

「国語力不足」に課題

思考過程を
構成・整理し、表現する

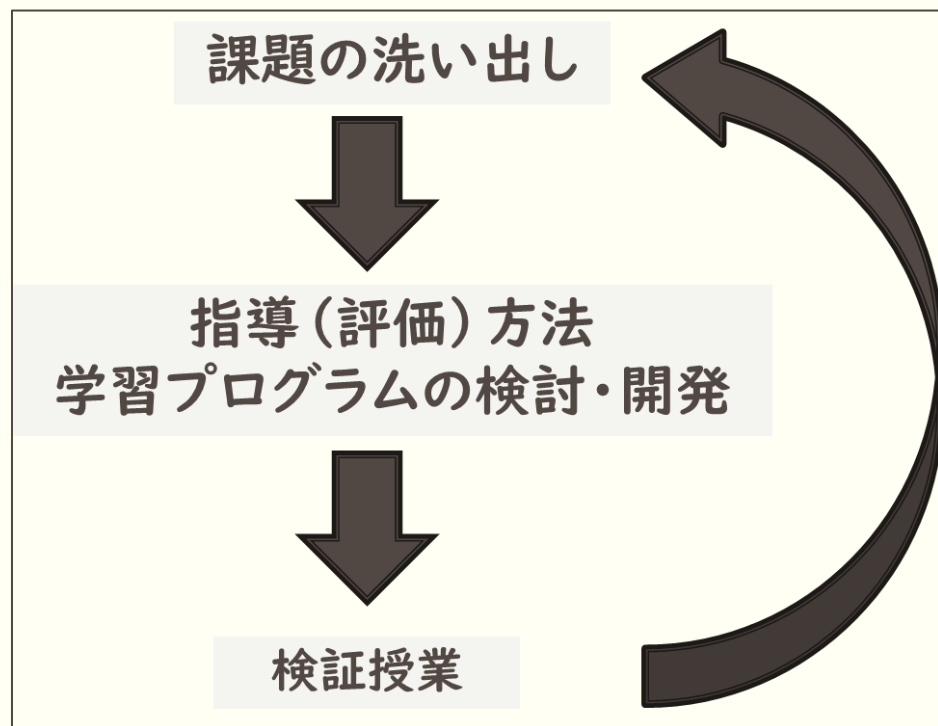
「過程」への着目：構造化

資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ

(文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』p9より一部抜粋)

はじめに：方法と内容

研究方法



【理科】

私のレポート 白い粉末の区別

2021年7月12日 天気：晴れ 1年3組 大塚 優樹

目的……A、B、Cの3種類の白い粉末の性質をいろいろな方法で調べ、それぞれ砂糖、食塩、片栗粉のどれかを区別する。

予想……砂糖と片栗粉は加熱すると燃え、食塩は燃えないと思う。砂糖と食塩は水に溶けて透明になるが、片栗粉は水に溶けても透明にならないと思った。片栗粉はヨウ素液を青紫色に変化させるが、砂糖と食塩は変化させないと思った。

準備……白い粉末A、B、C（砂糖、食塩、片栗粉）、石灰水、ヨウ素液、炭酸石灰、蒸気皿、ビーカー、ガラス棒、燃焼さじ、集気瓶、ガスバーナー、アルミニウムはく、保護眼鏡

方法……①白い粉末A、B、Cをそれぞれ異なる燃焼さじにのせて加熱し、変化を観べた。
②①で加熱して火がついた物質を集気皿に入れ、ふたをした。
③火が消えたら物質をとり出して、集気皿に石灰水を入れ、ふたをして振り、石灰水の変化を観察した。
④②とは別の集気皿に石灰水だけを入れ、ふたをして振り、石灰水の変化を③と比較した。
⑤水に白い粉末A、B、Cを入れ、溶けるかどうかを観察した。
⑥白い粉末A、B、Cにヨウ素液を加えて変化を観べた。

結果……実験の結果、次の表ようになった。

物質	A	B	C
加熱したときの変化	火がついて燃えた。	燃えなかった。	黒色になって煙いにおいがした。燃えた。
石灰水の様子	白くにごった。	—	白くにごった。
水に入れたとき	溶けなかった。	溶けた。	よく溶けた。
ヨウ素液の色の変化	青紫色になった。	変化しなかった。	変化しなかった。

考察……加熱したとき、AとCは燃えたがBは燃えなかった。Bが食塩だと考えられる。水に入れたとき、Cはよく溶けたが、Aは溶けなかった。また、Aのみヨウ素液の色が青紫色に変わったので、Cが砂糖、Aは片栗粉だと考えられる。

感想……加熱したり、水に溶かしたりすると性質のちがいを調べることができた。食塩は加熱しても全く変化がなかったのが驚いた。

課題の洗い出し

現段階で教科書に示されている「科学レポート例」のわかりにくさ

- なぜ実験をするのか（理由）が不明瞭
- 仮説の根拠が曖昧であり、単なる「予想」となっている
- 「結果」「考察」「主張」の区別がついていない

提示する情報の必然性

目的意識（開かれる「場」）

情報の質

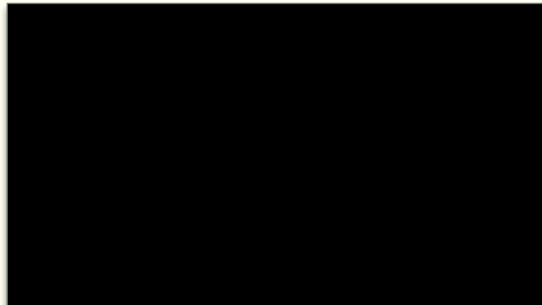
はじめに：方法と内容

提示する情報の必然性 目的意識（開かれる「場」） 情報の質

【先行研究・実践】慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部 堺雄輝先生

- 「教科横断による授業設計とその実践 ―中学校の国語・理科を例として―」
（堺 雄輝, 竹田 大樹 教育実践学会第31回大会ポスター発表, 2023.12, 教育実践学会）
- 「教科横断による中学生の言語能力育成を狙う連携カリキュラムの開発」
（学事振興資金研究成果実績報告書（慶應義塾大学）2022）
- 「中学校国語科と理科における融合カリキュラムの授業設計に関する研究 ―「春のニュースを作ろう」を題材とした言語活動の実践―」（堺 雄輝, 竹田 大樹『教育実践学研究』（教育実践学会）27(pp13 – 28) 2024.3)

「三角ロジックを用いて天気予報を行う」



論理的思考を促す三角ロジックやトウルミンモデルを援用した
国語と理科で共通して使えるモデル図の活用

「事実」「理由付け」「主張」という論述構造の各要素を
「色分け」し共有する

はじめに：方法と内容

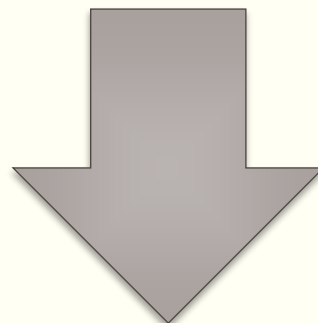
論理的思考を促す三角ロジックやトウルミンモデルを援用した
国語と理科で共通して使えるモデル図の活用

「事実」「理由付け」「主張」という論述構造の各要素を
「色分け」し共有する

「過程」への着目：構造化

+

情報の質：視覚化



「色」の要素の導入
→ GIGA端末（一人一台端末）の導入による
学習活動の大きな変化の一つ

【仮説】

生徒の思考過程の構造理解および
汎用型（教科横断型）アーギュメントスキルの構築に繋がる

はじめに：方法と内容

坂本 美紀「アーギュメント・スキルを育成する理科授業と評価枠組みの開発」(博報堂教育財団 第6回(2011年度)児童教育実践についての研究助成事業 研究成果報告書)

アーギュメント(argument)とは、理由づけや反証例の想定など、ある主張を構成するための一連の言葉の形式、あるいはそれらの構成要素を含む一連の言葉のやりとりを指す。

山本智一「日本の理科教育におけるアーギュメントの研究動向」
(『理科教育学研究』vol.65 No.1(2024))

アーギュメントとは、主張(Claim)、データ(Data)、論拠(Warrant)、裏付け(Backing)、限定(Qualifier)、反駁(Rebuttal)といった構成要素からなる論証の形式であり(Toulmin, 1958)、これまでに国内外の理科教育にアーギュメントの指導が導入されている

理科教育においては、実験結果に基づいて他者を説得し、妥当な結論に合意する営みが不可欠であり、このプロセスにアーギュメントが大きな意義を持つ

Dushl and Osborne (2002)は、アーギュメントの内容を表す言葉として「アーギュメント(argument)」を、アーギュメントを構築するプロセスを表す言葉として「アーギュメンテーション(argumentation)」を使用している。Osborne et al. (2016)も同様に、前者をプロダクト、後者をプロセスとしている。

McNeill et al.(2016)は、アーギュメントの PCK (Pedagogical Content Knowledge) を概念化する際に、構造的側面と対話的側面の2つを取り上げ、前者については主張・証拠・理由付けなどの構成要素を、後者は説得の際に個人間で起こる相互作用を重視している。

アーギュメントの形態としては、「記述(ライティング)」と「口述(オーラル)」がある。

はじめに：研究の目的、方法と内容

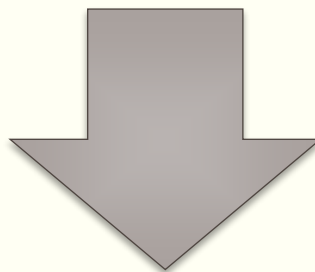
論理的思考を促す三角ロジックやトウルミンモデルを援用した
国語と理科で共通して使えるモデル図の活用

「事実」「理由付け」「主張」という論述構造の各要素を
「色分け」し共有する

「過程」への着目：構造化

+

情報の質：視覚化



「色」の要素の導入

→GIGA端末（一人一台端末）の導入による
学習活動の大きな変化の一つ

【仮説】

生徒の思考過程の構造理解および
汎用型（教科横断型）アーギュメントスキルの構築に繋がる

アーギュメンテーション

構造的側面 構成要素とその結びつき

アウトプット：記述 にあたっての

情報の扱い方に関する事項（情報と情報との関係／情報の整理）の観点からの接続

授業の実際：指導（評価）方法・学習プログラムの検討・開発

「探究の過程」

事実

事実

「色分け」による情報の共有性の向上

- ・ カラー印刷したワークシート
- ・ 記入した内容を色ペンで分類
- ・ 板書による情報を色チョークで整理
- ・ 「ロイロノート」等デジタルシートにカラー表示

根拠

理由付け

価値づけ

事柄を展開させるの動力に、
「自分の考え」の導入の度合いを
意識づけるラベルの設定

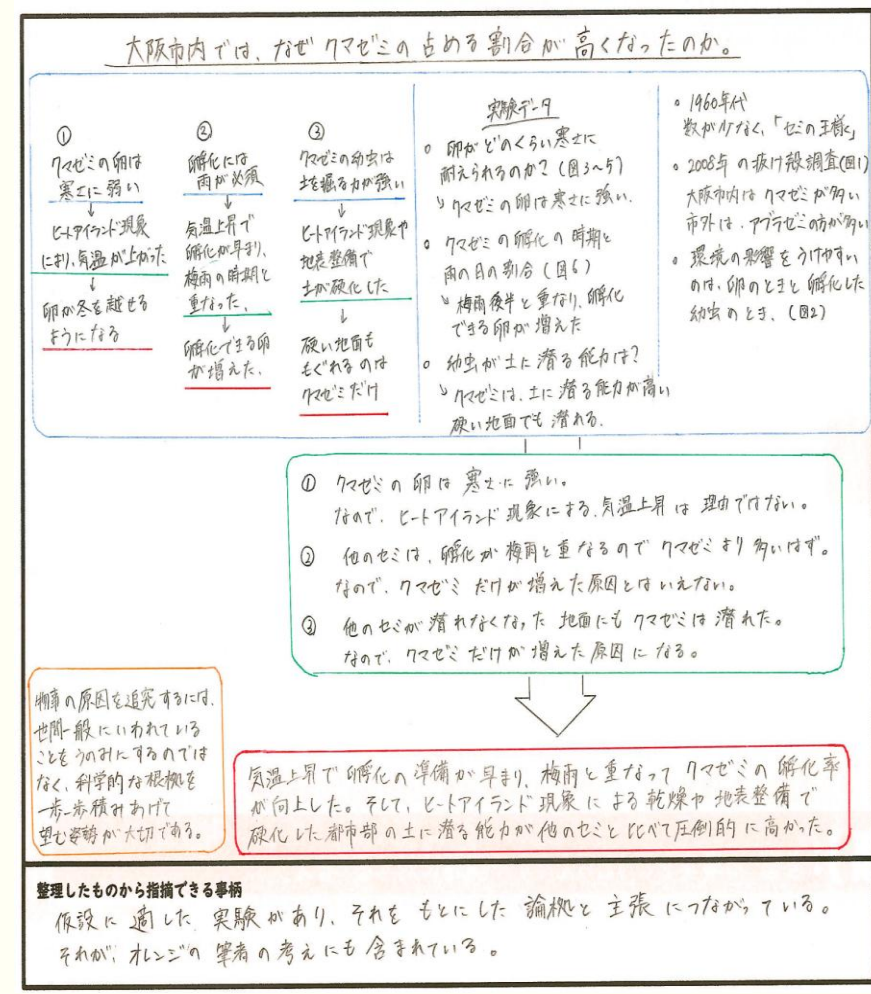
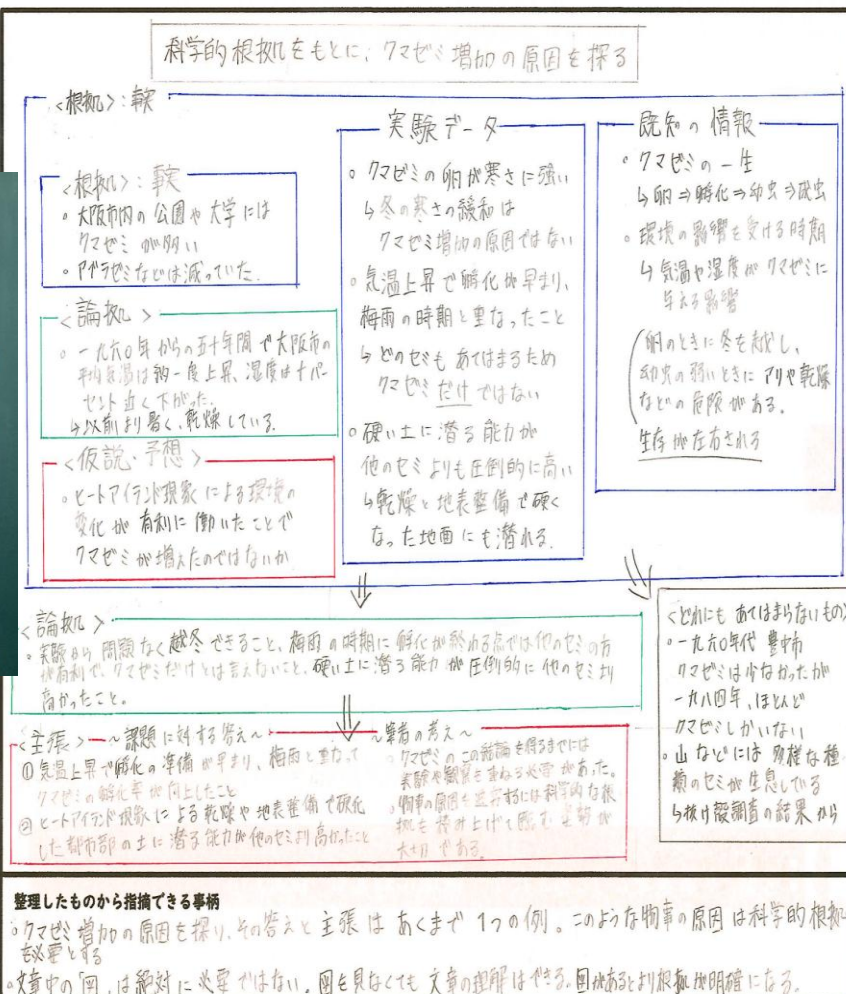
主張

主張・解釈

土台となるモデルを踏まえ
実践を重ねていく

I. BGRモデル導入・・・科学的事象を扱った文章（「クマゼミ増加の原因を探る」）の情報整理について、モデルを用いて構造化

情報のつながりに
着目した読み



授業の実際：指導（評価）方法・学習プログラムの検討・開発

三要素をもにした情報同士の結びつきや情報整理と「表現」についての考察

これらの三要素によって問題があらで理由があり、結論が出来るということとをミラブルな形をとる複雑なものをも書くことが出来る。そして情報をもつ三要素に当てはめることで文章や元の情報の一部分のつながりが分かる。また、視覚的にも良やすい形に書き表せることが可能だといふ。

情報を表す方法として文章のように時間ととも流れていくものと視覚的に見る
ことが出来るものの二つがあると思ふ。

事實と根拠と主張を混ぜた書き方で、今まで違ひも明かして
いながら、たが、今回三つを区分して書くことで、その情報
が正しいか、自分の思い込みかをわからせられて、真の情報整理
になった。

焦点を事例によって定め直すことで、それまでの理解が深ま
った。

事實と根拠と主張を混ぜた書き方で、今まで違ひも明かして
いながら、たが、今回三つを区分して書くことで、その情報
が正しいか、自分の思い込みかをわからせられて、真の情報整理
になった。

焦点を事例によって定め直すことで、それまでの理解が深ま
った。

事実(根拠) 論拠 主張の3つ全てがきちんと言明して書かれて
 いると論理性のある文章になるのではないかと思った。
 自分は文章を書くときいろいろな表現をついてしまうことが多く、
 かってに分かりにくくなることも多いから、表現の過多と過少は良く
 ないと思った。

事実(根拠) 論拠 主張の3つ全てがきちんと言明して書かれて
 いると論理性のある文章になるのではないかと思った。
 自分は文章を書くときいろいろな表現をついてしまうことが多く、
 かってに分かりにくくなることも多いから、表現の過多と過少は良く
 ないと思った。

まず、初期段階として、文章において重要なのは「事実」と「主張」だと図にいます。なので、表現的には「事実」と「主張」を最初に出すと読み手にとって分かりやすいものとなり、「論拠」はそれらをつなぎ、より文に説得力をもたせるものです。

まず、初期段階として、文章において重要なのは「事実」と「主張」だと図にいます。なので、表現的には「事実」と「主張」を最初に出すと読み手にとって分かりやすいものとなり、「論拠」はそれらをつなぎ、より文に説得力をもたせるものです。

事實・論拠・主張の三要素を使つたことで、段階を踏みながら
問いに対する主張をするしかできなかった。このように順序づけて書い
ていくことで、主張をするためには、事実となるデータを根拠とし、
その結果から主張に向けて考えることで論拠が成り立つ。そのようにして、段階を

事實・論拠・主張の三要素を使つたことで、段階を踏みながら
問いに対する主張をするしかできなかった。このように順序づけて書い
ていくことで、主張をするためには、事実となるデータを根拠とし、
その結果から主張に向けて考えることで論拠が成り立つ。そのようにして、段階を

ふんてい
には持てる主張
をすること、より
論理的な文章に
なるんと思う。

様々なタイプの事実が結びつき、あることで論拠の要素となる。事実はタイプに分け合うこと、どのような内容が明白なりか、わかつてゐるのかがわかる。主張がただの「予測」ではなく、**確実性のある推定**にするために**論拠があるため**、論拠は「さうさう」といったあいまいな表現であったり、確かかわからないことを述べず、**ではなく、事実を述べるべき**。主張も「と思ふ」ではなく「さうさう」のほうが強い主張になり納得性が増す。

様々なタイプの事実が結びつき、あることで論拠の要素となる。事実はタイプに分け合うこと、どのような内容が明白なりか、わかつてゐるのかがわかる。主張がただの「予測」ではなく、**確実性のある推定**にするために**論拠があるため**、論拠は「さうさう」といったあいまいな表現であったり、確かかわからないことを述べず、**ではなく、事実を述べるべき**。主張も「と思ふ」ではなく「さうさう」のほうが強い主張になり納得性が増す。

まず、テーマから自分なりの仮説を立てます。そして、実際に見たものや既知の情報から、主張をたてます。そして、「主張」がわっていると納得できる。ように、**論拠**をたてます。このようにして情報は結びついていくと考へました。仮定の事実と主張と論拠と主張の順番で、テーマについて納得いくよう表現していると思ひました。

まず、テーマから自分なりの仮説を立てます。そして、実際に見たものや既知の情報から、主張をたてます。そして、「主張」がわっていると納得できる。ように、**論拠**をたてます。このようにして情報は結びついていくと考へました。仮定の事実と主張と論拠と主張の順番で、テーマについて納得いくよう表現していると思ひました。

授業の実際：指導（評価）方法・学習プログラムの検討・開発

3. 文章化／明示的な「既知の情報」を文学的文章に・・・テーマ、三要素の結びつきという気づきをもとに、文章化

ことばで読む「文学的文章」から考える～ 『走れメロス』が『走れメロス』であるために	【提出】	対象 【主】【用】	（提出日） 2/8
--	------	--------------	--------------

◎設定した課題をもとに資料を比較し、収集した情報とそのつながりを生かしながら自身の考えを提示する。

「走れメロス」とはどのような物語なのか。まず『走れメロス』が『走れメロス』であるために、ということに注目し、
課題を メロスは「強い人物」なのか と設定した。

本レポートでは メロスの表と裏 について検討し、メロスの強さ、強さ に焦点を当てて考えていく。

「走れメロス」のメロスには、王に言い返し
たり決めたことを貫き通したりするといった
勇敢な面が多く描写されている。そのため、
メロスは強い人物だと考えられがちである。

そのように言えるのは、物語の最後がメロス
が王の心臓に勝つ、という内容になっているか
らだ。つまり、物語の終わりで、メロスには
つきりと軍配が上がったことが理由となる。

しかし、原作の描写を他の登場人物の立場か
ら見てみると、メロスが強いという事柄に疑
問符がつく。なぜなら、メロスの勝ちな理由
で一度親友の命が見捨てられかけていたからだ。

他の五つの資料はそれぞれかなり異なり、そ
れぞれの特徴がある。ただし、総合的にまと
めるとするならば、どの資料もメロスの強い
部分を強調して描写していることが言える。

メロスの強さを強調するには、いくつかの方
法があることが分かった。例えば、弱さを強
調しないことまたは言及しないこと、絵によ
り読者にイメージを植えつけることがある。

計六つの資料を比較し、「走れメロス」は、
メロスが強いことを前提としているという共
通点が見られた。ゆえに、主題は全てほとん
ど同じであるだろう、という予想を立てた。

実際に全ての資料でそれぞれ主題を考えてみ
ると、どれもメロスが強いことで表される主
題であった。つまり、それぞれの資料の相違
点は主題の伝え方にあるということである。

これらのことから、メロスは客観的に読むと
あまり強い人物ではないということも導き出
した。ただし、「走れメロス」において、メ
ロスが強い人物であることは必要なことであ
る。

どの資料においても、メロスが強い人物であ
る、という仮定をしなければその物語の主題
が成り立たないことが分かった。なぜなら、
全てメロスは勇者のまま物語が終わるからだ。

よって、「走れメロス」が『走れメロス』であるためにメロスは「強い人物」であることを演出している必要がある。

そのすることによって「走れメロス」という
物語を媒体として、作者の本当に伝えたいこ
とを伝えることができるようになる。つまり、
作者の意図的な強調があることを理解した上
でメロスが強いと仮定して主題を見抜くこと
ができるようになったと考えられる。

これより、「走れメロス」は自己を犠牲にしたがうもて他人の救済や救済を導くことの意味を説く物語といえる。
物語を「走れメロス」以外に他の登場人物の立場などから別の角度で物語を見ることが重要である。
なぜなら、そのすることによって作者が意図的に強調していることが見えやすくなり、物語の本当のテーマがわかるからである。

思考過程を
構成・整理し、表現する

アウトプットした事柄を
俯瞰的にとらえる

- ※「表現」にあたって
→形式面では「R80」の活用
- ※「事実」「価値付け」
→「ストーリーボード」

色の混濁や「無色」の可能性、
提示順序への気づき

◎設定した課題をもとに資料を比較し、収集した情報とそのつながりを生かしながら自身の考えを提示する。

「走れメロス」とはどのような物語なのか。まず「『走れメロス』が『走れメロス』であるために」ということに注目し、
課題を メロスは「強い人物」なのか と設定した。

本レポートでは メロスの表され方 について検討し、メロスの「強い」の強調 に焦点を当て考えていく。

「走れメロス」のメロスには、王に言い返し
たり決めたことを貫き通したりするといった
勇敢な面が多く描写されている。そのため、
メロスは強い人物だと考えられがちである。

そのように言えるのは、物語の最後がメロス
が王のバに勝つ、という内容になっているか
らだ。つまり、物語の終わりで、メロスには
つまりと軍配が上がったことが理由となる。

しかし、原作の描写を他の登場人物の立場か
ら見てみると、メロスが強いという事柄に疑
問符がつく。なぜなら、メロスの勝ちな理由
で一度親友の命が見捨てられかけてたからだ。

他の五つの資料はそれぞれかなり異なり、そ
れぞれの特徴がある。ただし、総合的にまと
めるとするならば、どの資料もメロスの強い
部分を強調して描写していることが言える。

メロスの強さを強調するには、いくつかの方
法があることが分かった。例えば、弱さを強
調しないことまたは言及しないこと、絵によ
り読者にイメージを植えつけることがある。

計六つの資料を比較し、「走れメロス」は、
メロスが強いことを前提としているという共
通点が見られた。ゆえに、主題は全てほとん
ど同じであるだろう、という予想を立てた。

実際に全ての資料でそれぞれ主題を考えてみ
ると、どれもメロスが強いことで表される主
題であった。つまり、それぞれの資料の相違
点は主題の伝え方にあるということである。

これらのことから、メロスは客観的に読むと
あまり強い人物ではないということを読み出
した。ただし、「走れメロス」において、メ
ロスが強い人物であることは必要なことであ
る。

どの資料においても、メロスが強い人物であ
る、という仮定をしなければその物語の主題
が成り立たないことが分かった。なぜなら、
全てメロスは勇者のまま物語が終わるからだ。

よって、「走れメロス」が『走れメロス』であるために「メロスは強い人物」であることを演出している必要がある。

そうすることによって「走れメロス」という
物語を媒体として、作者の本当に伝えたいこ
とを伝えることができるようになる。ゆえに、
作者の意図的な強調があることを理解した上
でメロスが強いと仮定して主題を見抜くこと
ができるようになったと考えられる。

これより、「走れメロス」は 自己犠牲にしながらも他人との約束や信念を貫き通すことの美を説く 物語といえる。

物語を「読む」うえで 語り手以外の他の登場人物の立場などから別の角度で物語を見てみることが重要である。

なぜなら、そうすることで作者が意図的に強調していることなどが見えやすくなり、物語の本質をつかみやすくなるからだ。

授業の実際：指導（評価）方法・学習プログラムの検討・開発

4. 要素の抽出と順序による変化の検討・・・名刺カードを用いた「展開」の推敲

思考過程を
構成・整理し、表現する

事柄同士のつながり
構成による情報の果たす
役割の変化

現場

ジャンル

対象

由来

対義語

置きかえ

用途

アイドル用語

ファン・オタワ

「会場」より「現場」
の方が臨場感が
伝わるから。

在宅

「今回は仕事の都合
で現場に行けなそう
なので、在宅で見守り
ます。」

「イベント会場」

現場:「イベント会場」

アイドル用語であり、ファンオタクの中で使われている言葉だ。主に舞台やコンサート会場を指す語だが、

「会場」よりも「現場」の方が臨場感が伝わることから「現場」と言われるようになった。対義語として「在宅」があげられる。

「今回は仕事の都合で現場に行けなさそうなので、在宅で見守ります。」などが例文として挙げられる。

「説明」-辞書との類似性への気づき

→身の回りの事象(「事実」)の活用可能性

ワードハントや置き換えをするうえで、客観的視点と観点の理解が重要だった。ワードハントの語は自分の「内なる地図」にあるものだが、他者の理解の範囲にあるとは限らない。他者に伝えるために、“一般的にどう捉えられているのか”を改めて確認する必要がある。また「一般的」の基準を設けるのも自分自身なので、それらも解釈の一部であることを忘れてはいけない。ワードハントは、専門的な用語を相手に伝えるときに活かされる。私の父や兄の会話には音づくりなど音楽について話題がよくあがる。意見を求められることもあるが、あまりにも専門的すぎて会話についていけなかったのを覚えている。専門的な分野について詳しい人がその分野についてあまり知らない人にも話を広げるのは、おそらくその分野について知ってもらいたいと思っているからだ。伝えなくても伝わらなければそのやり取りは意味をなさない。「一般的」についての理解のズレを生まないために、今回は班での活動があった。複数人の考え方を聞くことでお互いに同じ認識を持っているものを見出すことができた。実際の対話では、お互いにどこまでその事柄に対する理解があるのか探るべきだ。また、相手がどこまで理解しているのかを探るうえで、視点の相違が生まれないように「観点」に沿って話す必要がある。

このように、「再発見」を捉えるうえで、一般的にどう理解されていて相手はどこまでわかっているのか、そして、その「理解」はどのような観点から話されているものなのか、という二つを軸にすることが重要だと私は考えた。これらはいくまで全体からのアプローチだ。より正確に捉えるために、かたまりの繋がりを把握する必要がある。ストーリーやシークエンスはかたまりの繋がりの理解を促す役割があると言える。

「ワードハント」×「説明」⇒「再発見」

授業の実際：指導（評価）方法・学習プログラムの検討・開発

5. 資料と自身の経験を接続し自身の考えをまとめる・・・「事実」の質的なバリエーションを考える

思考過程を
構成・整理し、表現する

デジタルデバイスの活用

【質問3】「誰かの代わりに」をもとにした意見文（経験の横断）

◆ 鷲田清一「誰かの代わりに」(教科書pp166-170) をもとに、自身の考えをまとめる

※BGRで区分していますが、3枚で「一つの文章」です。分断されたものにならないように。

1. 「自分とは何か」という表現を「 」の語で言い換え、タイトルとする（意見文全体を反映）
2. 筆者の示す考えを、「誰かの代わりに」で紡がれたストーリーに留意しながら [B：事実] として位置づける。そのうえで焦点化する話題を示す。
3. この後の展開をふまえ、その事柄をどのように価値づけるかを「G：理由付け」として示す。
→シーケンスを意識し、各カードに入れるべき内容とその切れ目を検討すること。
4. [B]「G」を踏まえ、自身の考えを [R：主張・解釈] 明らかにする
5. 上で示した「BGR」をもとに、「内なる地図」の関わりについて考察し、R80形式でまとめる。
→例）話題と「内なる地図」の関係性、どのような「内なる地図」が描かれるか、どのように描かれるかなど

自分とは何か：「弱者であり強者」

今の社会は個人の自由が保証された社会だからこそ自分の存在価値について考える機会が多い。自分の存在価値を見出せなかったとき私たちは無条件の肯定を求めるが、筆者は「依存」に陥る危うさを感じている。苦労や困難乗り越えるためには「自立」（支え合い）が必要だ。他の人たちと関わり合い、弱さを補い合うからこそ人は倒れずにいられ、自分が存在することの意味にもなる。

筆者の考え同様、人間は独りで生き抜くことはできないが、支え合うことで困難をも乗り越えられると私は考える。

私たち人間は独りで生き抜けるほど強い存在ではない。「自分とは何か」を考える前に「人間とは何か」を考え、人間の弱さについて理解するべきだ。その弱さは他者/自分に関係なく持っているものであり、弱さは自分の存在価値の証明ではない。自分が弱いことを嘆き自分自身で存在価値を捨て、他人に委ねるその行為こそが弱者であることの証明なのだ。全員が何かしらの弱さを持っているが、持っている弱さは人それぞれだ。そして自分の弱さに気づいたとき、独りでは生きれない私たちは他の人に頼ればいい。自分の弱みとする分野はその分野の得意な人が助けてくれるだろう。そして弱さがあるように自分には強みもある。その強みを他人のためにも使うことで補い合って生きていくのだ。自分の弱みは他人の存在する意味、自分の強みは自分が存在する意味となっている。自分の価値のみに拘らず、少し視野を広げて他人を見ることで、自分にも相手にも価値を見出すべきだ。

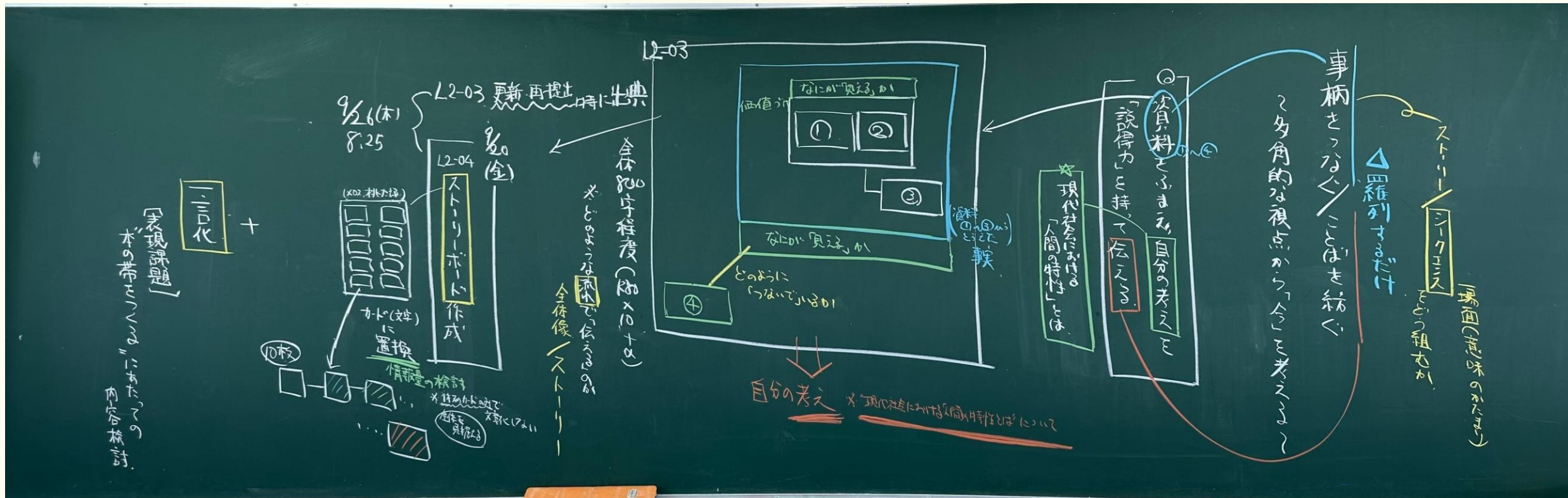
私たちが生きていくうえで、一人の時間も、他人と関わる時間もどちらも必要だ。しかし、自分が持つ「内なる地図」だけでは他人と関わっていくことはできない。なので、他人と関わっていくなかで共通の「内なる地図」を持ち、自分たちの世界を構築していくべきだ。また、コミュニティが大きくなるごとに別の「内なる地図」ができ、社会の基盤になっていると考える。

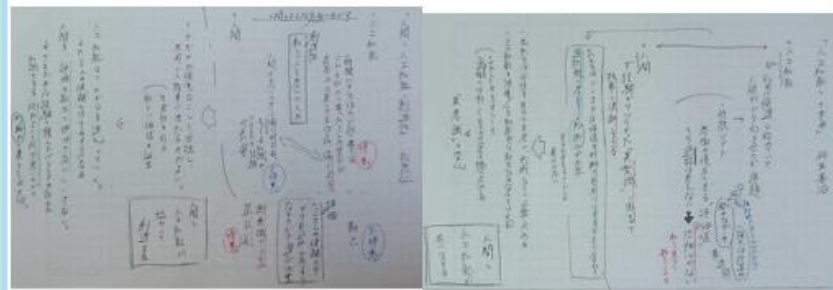
授業の実際:指導(評価)方法・学習プログラムの検討・開発

5. 複数資料を導入し、「事実」を複線的に導入する・・・活動(過程)をそれぞれの段階に明示的に位置づける

思考過程を
構成・整理し、表現する

具体⇔抽象の往還





資料③「温かいスープ」

筆者のいう国際性の基調である「無償の愛」は、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人間の仲間であるという自覚からくるものだ。パリの小さな手作りの料理店で、外国人である筆者へ「無償の愛」を注いでくれた店の母子こそが、今一人一人の平凡な日常の中で求められている国際性だ。

人間が持つ多種多様の愛

資料④ 「医療・福祉システムの基盤 制度化に必要な『四つの条件』」

「オランダの安楽死法は、輸出できない」オランダのゆとり
オランダの安楽死政策に対するドイツの批判 ヨナナス・ドイツの障害者権利の「安楽死政策」
親族の半分を強制収容所で失ったコーヘン氏だが、オランダ批判に対し反論し、安楽死の合法化には、その社会の成熟が必要だと確信。
安楽死の制度化には、社会に四つの条件が揃っていないだけでなく、どれか一つが欠けても合法化は危険
①だれもが公平に高度な治療が受けられる医療・福祉制度 ②腐敗がなく信頼度の高い医療
③個人主義の徹底▷自分の生死に関する最重要の問題に、自分自身が向き合い、主体的判断を下せるか、否か。日本のように「患者よりも家族」という風潮のある国での安楽死の合法化は危険
④教育の普及▷意識と向き合い、その言葉を正しく、冷静に理解する能力を育むため。
「安楽死を可能にする医療・福祉」とは＝医療負担の金額が決定的要因ではない人が安楽死に望み込まれる危険性
▷先進国すべてに共通する問題。医療費を心配せずに、だれもが安心して暮らせる制度が必要

出典：『安楽死のできる国』 著者；三井美奈 発行者；佐藤隆信 発行所；株式会社新潮社 発行年月日；2003年7月20日

資料1と資料2の比較
「人工知能にできること、
人間にできること」

そこから見出せる事象
「人工知能と人間の共存のために」

資料3の提示
「人間の国際性が生む愛情」

資料3の信憑性についての検討
「どこまでが愛情なのか」

資料4の提示
「安楽死をするためには」

資料3による資料4の検討
「愛情と死」

ここから見出せる因果関係
「取り巻く人々が与える影響」

資料1,2の視点から見た資料4
「人を死なせる立場」

資料4を視点にして見る未来
「自由と個人主義」

〈一言化〉

死の課題

◎資料をふまえ、自分の考えを「説得力」をもって伝える。⇒人間社会における「人間の特性」とは
※本文中資料①～④については、末尾に記したものを指すこととする。

「現代社会における『人間の特性』」について、人工知能の進歩から人間の在り方を考える。

また、人間の生死を検討し、日本の成長に焦点を当てながら考えていく。

人間と人工知能には、それぞれに得意とする分野を持っている。人間は良し悪しの判断が優れていて、人工知能は感情に左右されず、データと元以最適解を導き出せる点において優れている。

両者は対立するものとして捉えられがちだが、どちらか一方のみでは十分な成果は得られない。なりで、互いの良さを引き出し、共存することで、よりよい社会を築いていくべきだ。

人間の優れた判断力は、一人一人異なる個性を持つ人間と向き合うことで育まれている。また、向き合ったことで生まれる関係性は、愛情で注ぎ合うことで保たれている。

しかし、愛情は実際に見て確認できるものではない。だからこそ、互いの気持ちも言葉にし、その度に相手と向き合い、形を変えながらも、関係を続けていくのだ。

では、互いに気持ちも伝え合った時に食い違いが起こった場合はどうするのだろうか。例えば、安楽死。本人の意志に関係なく、周囲の人が死なせてやってくれと致死薬を投与させるかもしれない。

安楽死の制度化には四つの条件が必要とされている。その中でも、個人主義の徹底と教育の普及は、私たちに直接関わってくる問題と言える。

先に述べたように、生きたいと患者が思っている場合、植物状態の患者を死なせるのは可能なので、だから、自分の生死に向き合うことや、それらに関する知識や向き合い方を身につける必要がある。

そして自身に向き合った結果、安楽死を望む者もある。しかし、死を望む者がいれば、人を死なせる者も必ずいる。医師たちは、人を死なせる覚悟と苦しみを感じなければいけない。

そこで、感情持たない人工知能に死なせる役割を任せるのも良いと私は考える。しかし、その分、自分自身判断の重みは増すため、自分はいくらでも冷静で正しい判断が求められる。

では、「現代社会における『人間の特性』」を日本人という枠組みで考えてみる。

日本人は人に流されやすく、医療の場で「患者より家族」という風潮があり、個人主義の大成はまだ見込めない。しかし、日本の教育水準が高いのも確かで、自分自身に向き合い方や知識の習得は早いだろう。持っている知識も正しく主張できる場を作ることで、日本の成長に繋がる。

【出典・参考文献】
資料① 羽生善治「人工知能との未来」(光村図書『国語3』p124・125)
資料② 松原 仁「人間と人工知能と創造性」(光村図書『国語3』p126・127)
資料③ 今道友信「温かいスープ」(光村図書『国語3』p196・199)
資料④ ミチ夫「医療・福祉システムの基盤」(光村図書『国語3』p197・198)

授業の実際：指導（評価）方法・学習プログラムの検討・開発

6. ポスター発表資料作成・・・「一覧性」を持つことによる、部分-全体の関係への着目

思考過程を
構成・整理し、表現する

思考過程の共有

小説の映画化に伴う表現技法の違い
～「かがみの孤城」を元に考える～

【はじめに(テーマ設定の理由・背景)】

同じ作品でも小説から映画化することによって、原作ファンにとっては解釈違いで映画化されたものが批判されてしまったりということに前から疑問を持っていたため。
比較する作品を「かがみの孤城」に決めた理由として、小説の映画化に伴う表現技法の違いについて考えられる作品を選ぶ時に、自分の一番好きな小説を今回の研究をすると同時に深く解釈をしたいと思ったから。また、小説、映画を原作としたアニメ映画・連動の各媒体がそろっており、どの媒体も一度読みたり見たりしたことがあったため、研究もスムーズに進められると考えた。

【研究の目的】

表現媒体の違いを明らかにし、さらに詳しい伏線などの違いまで研究をしてどの媒体が一番作品を深く表現できるのかについて考える。

【研究の方法・内容】

各媒体をよく見たうえで同じ箇所の表現の違いを比較していく。小説はどのような風景なのか、どのように感情が込められているのかなど全て自分で想像しながら読まないといけないが、アニメには絵やBGM、声があてられているため、小説よりさらに具体的にっており、今まで解釈が極々だったものも一つの表現に統一されてしまうという観点からも考えていきたい。

【焦点化する部分】

・小堀内とアニメ映画内の同じシーンでの表現方法の違いについて
・原作とは違う表現・伏線



【対象について】

・『かがみの孤城』
著：辻村深月
出版社：ポプラ社
発行日：2017年5月
・映画『かがみの孤城』
監督：原恵一
原作：辻村深月
脚本：丸尾みほ
劇場公開日：2022年12月23日



【あらすじ】

中学生のころは、学校に居場所がなく部屋に閉じこもっている。ある日部屋の鏡が光りだし、ここは別世界へ吸い込まれる。おどろきの話のようなお城には、見知らぬ中学生7人が集められており、狼の仮面を被った少女がここらたちを期限は1年間で鍵を見つければ何でも願いが叶えられるという。なぜこの7人が、なぜこの場所に。すべてが明らかになると、驚きともにも大きな感動に包まれる。

【分析】

まず大きく見られる違いとして、小説には描かれていない伏線が映画の中には散りばめられているという点がある。
そのものの多くは複層的情報（登場人物の持っている小物など）と隠層的情報（流れている音楽など）と手の込んでいるもの（今回だとスパルが別名六連星と呼ばれていることが関係していろいろ）の3つに分けられた。話している状況は同じでも、話している内容が違ったりなど、映画の特性を活かした伏線が多く含まれており、より今後の展開に気づきやすいものに変わっていたという印象を受けた。
また、小説に比べて映画は「家でのシーン」がかなり削られており、小説では描かれていたところの父は一回も登場していない。それに比べて、城で過ごす時間の描写が多く、会話の内容もいくつか増やされている。
小説ではどちらも同じくらい描写されていたため、映画はどちらかというと城で過ごす人に焦点が置かれていて、仲間の大切さや過ごす記憶がなくてもどこかで繋がっているというメッセージが込められているのではないか。

【まとめと課題】

これらのことを踏まえると、二つの媒体で作品を楽しみたい人は原作から見るといいと思った。原作を先に見ることで思っていた表現と違うという可能性も高いが、小説でいろいろな解釈を考えておくことであくまで一つの解釈として楽しむことができようと思う。原作から派生したものから見てしまうものにとらわれて新たな発見があまりできなくなってしまうかもしれない。私は小説が一番作品を深く楽しめると思うが、小説を読むのが苦手だったり分厚くてハードルがあるという人にとっては本を読んでみようと思えるような一歩だと思うので二つの媒体を自分にあった方法で使い分けていくのが大切だと思った。

【参考文献】

・須田貴子「小説の映画化における表現法とその効果」<http://hdl.handle.net/10083/0002000103> (2024/06/21)

主題歌と作品における関連性
～テーマ、表現の観点から～

【はじめに(テーマ設定の理由・背景)】

「自分の好きなもの」を研究するうえで、最も興味のあるものが「音楽」であり、作品であったから。

【研究の目的】

様々な作品を「音楽」(特に「主題歌」)と比較して、それらのテーマや媒体による表現方法の違いを明らかにする。

【研究の方法・内容】

漫画、映像の二つの作品のストーリーや描写を明確にする。次に主題歌の歌詞を中心に分析する。その後、明らかにした事項をもとに、それらの「作品群の主題(テーマ)」を紐解く。それをふまえて、「主題歌と『作品』にはどのような関連性があるか」を明らかにする。

【分析】

〈ソラニン〉
～ストーリー～

2000年代初頭、アルバイトをしながら夢を追うバンドマン(種田)と、入社2年目で会社を辞めたOL(芽衣子)の二人は、安定しない生活を互いに支え合って暮らしていた。しかしバンド活動がなかなか成せず自信をなくした種田と、まだバンド活動続けてほしい芽衣子との間には、次第に軋轢が生じていく。それでも、2人は「最後の挑戦」を通して、「2人で幸せになる」道を選ぶ。だがその矢先、種田が交通事故で他界する。種田の死を乗り越えて、芽衣子は「平和な」日常を過ごしていく。

～歌詞～

昔 住んでた小さな部屋は
今は他人が住んでんだ
君に言われた ひどい言葉も
無駄な気がした毎日も

さよなら それもいいさ
どこかで元気でやれよ
僕もどーにかやるさ
そうするよ

あの時こうすれば あの目に開ければ
あの頃の僕にはもう 開れないよ

歌詞の面でも、変わりゆく日常の儚さ、別れの虚しさ、その中をこれからは生きていかなければならない「私たち」を描いている。

〈風立ちぬ〉

～ストーリー～

大正から昭和にかけての日本、幼い頃から空に憧れを抱いていた青年(二郎)は、航空機の設計士となる。関東大震災を経て人々が混乱する中、二郎は震災時に会った女性(菜穂子)と再会し、結婚する。しかし菜穂子は結核を患っており、二郎は菜穂子が長く生きられないことを知る。2人は残された時間を共に過ごすことを決意するが、二郎は新しい飛行機の設計のために、毎日夜遅くまで帰ってこなかった。苦勞の末に完成した飛行機の試験飛行の日、二郎を見送った菜穂子は「散歩に出る」と伝えたきり帰ってこなかった。大戦が終結したのち、夢の中で二郎と菜穂子は再会する。「あなた、生きて。」という言葉を二郎は涙ぐみながら受け入れ、強く生きることを決意する。

〈ひこうき雲〉

～歌詞～

この曲は1973年に発表されたもの。もとは作詞作曲家の荒井由実、難病により亡くなった友人を歌ったものだった。曲中では空に憧れた二郎への憧れ、「風のよう」だと称された菜穂子自身にも対応している。

白い服道が空で飛んでいた
ゆらゆら揺らぐが あの字を包む
涙も気づかず たひどりと
あの字は飛んでいく
何もおそれない、そして驚い上がる

空に飛んで
空をかくてゆく
あの子のはひこうき雲

【対象について】

作品群として、「ソラニン」と「風立ちぬ」・「ひこうき雲」を選択した。
『ソラニン』は原作を描いた漫画家である「浅野いにお」が作詞を、「ASIAN KUNG-FUGENERATION」が作曲を担当している。
『風立ちぬ』は、宮崎駿、鈴木敏夫が松任谷由実作曲の「ひこうき雲」を主題歌として採用した。

【焦点化する部分】

「音楽」と映像・漫画表現の違い

【研究の結果】

主題歌については、「ソラニン」は作詞を作者が行うことでストーリーやテーマを一致させ、曲をつけることで作品群としてのテーマを際立たせており、「ひこうき雲」は完全一致ではないもののストーリーとの対応もあり、こちらもテーマを際立たせている。

ソラニンは作者が作詞し、ひこうき雲は監督が「採用する」といった形で「主題歌」となるまでのプロセスが異なるが、それぞれが独立した「作品」として評価され、また古い曲が再熱するといったメリットがある。

『ソラニン』のテーマとしては、厳しい現実やうつり行く日常、それでも生活は続いていくという「夢さ」と「集結感」があり、表現の観点では、漫画は構成や視覚的アプローチで、音楽はより断片的な情報だが、音色の表現も含めて直情的に表現している。

『風立ちぬ』・『ひこうき雲』のテーマとしては、傷つき、病にかり、それでも憧れを追求して「今」を大事に生きることの大切さがあり、表現の観点でも、映像では構成、音声、動画と臨場感を演出する要素に富んでおり、音楽は「ことば」の重みが増し、曲調によっても世界観が形作られていると言える。

以上より、主題歌と作品の関連性にはテーマやストーリーの対応があり、主題歌は作品の中にあるテーマを際立たせるものと言える。

【まとめと課題】

今回の研究を通して、作品と主題歌にはどのような関連性があるのか、音楽と映像・漫画表現にはどのような違いと効果があるのかを明らかにした。
このような、「分析」の観点で作品を見直す、単に娯楽目的で鑑賞するときとは違った発見があり興味深かった。
しかし「表現の違いや効果、媒体としての特徴」について、どこまで掘り込まれたか、今後このような「表現媒体ごとの特徴」にも着目してさまざまな作品をみていきたい。

【参考文献】

『ソラニン』 浅野いにお 著 浅野いにお 監修 2017年11月4日初版第一刷発行
『ソラニン』 浅野いにお 著 浅野いにお 監修 2017年11月4日初版第一刷発行
『ひこうき雲』 浅野いにお 著 浅野いにお 監修 2017年11月4日初版第一刷発行

各課題の整理・分析

学習者の振り返り

BGRに分けることで、解釈（主張）までの筋道が見やすくなった。一つの解釈について観点ごとにラベルをつけ、それらを事実や理由付けに分類したので、より自分の解釈（主張）が明確になり自分の考えへの理解が深まった。また、B G Rのどれかに分類しなければいけないので、曖昧な部分の分類は事実と理由付け、理由付けと解釈の境界線を明示する役割になっていたと考える。また、内容は違えど形式が一致していることによる他の人と比較するときの共通点/相違点の見出しやすさを感じた。これは、特に同じ話題のなかで個々にBGRをしたときの焦点化したところの違いを見るのに有効だ。

分類することによる要素ごとの内容の深まりや比較のしやすさがBGRの可能性と言える。分類することにより一度組み立てた展開が崩され再構築を強いられる場合があるのがBGRの課題点だ。要素ごとに分けることは繋がりを見えづらくする可能性がある。また、B G Rに分けることは文章の要素の可視化とも言え、要素に偏りがあった場合組み立てが難しくなる。しかしそれらは、自身の文章や解釈の改善点を浮き彫りにする役割となっており、BGRをする最大の意味とも言える。浮き彫りになった改善点を見つめることは自分の「内なる地図」の傾向を知る機会だ。

BGRを通して自分の考え方について見直してみるべきだ。

「BGR」について

自分の書いている文章のどの部分がどの要素にあたり、どのような役割を果たしているのかということ、普段はあまり明確に答えを出したりしていません。しかし、BGRの取り組みをすることで、その明確な答えを出すべく自分の文章を役割を視点として分けたり述べる順番を考えることを意識したりしやすくなるのでそこがBGRの効果だと思います。それを通して、事実と自分の考えを混同して文章を書いたり、事実と論拠、主張の述べる順番が交差して他人に伝わりにくい文章になりやすい人でも改善される可能性があります。

一方で、課題点としては事実、理由付け、解釈・主張のうち複数の要素を含んでいる部分やどの要素も含んでいない部分などが文章中にあり、しかもそれがその文章において省けるものではない場合、どのような色分けにすれば分からなくなってしまうことがある点だと思います。

「BGR」について

各課題の整理・分析

学習者の振り返り

私がBGRについて考える効果は、物事の順序の見える化だ。国語でも理科でも複雑なものになればなるほど物事の順序も複雑になる。〇〇が事実だから〇〇ということができる。またそこから〇〇ということもできる。この2つを踏まえると〇〇ということができる。というように物事には必ず順序というものがあり、それを勘違いすると、解釈に他人とのずれが生まれてしまう。文章を読むにあたっては、筆者の意見が述べられているため、そこに読者に解釈のずれがあってはならない。そういったときにBGRを使うことで、物事の順序や関係性を視覚的に捉えることができるようになり、文字だけで解釈するよりも他人との解釈のずれは少なくなるのではないかと考える。

しかし視覚的にとらえることには課題点もある。目で覚えてしまうということだ。目で情報をインプットしてしまうと、内容を把握するということがより、目で見た「景色」で内容の把握をしてしまう恐れがあるのではないかということだ。BGRの本質的な目的に立ち返ってみると、目的は内容の把握や順序だてて物事を考えること、だと思う。しかし、目で「景色」として捉えてしまうことで、内容の把握や順序だてて物事を考えるというよりも、それを「覚える」ことにフォーカスされてしまう可能性があるのではないかというのが私が考えるBGRの課題点である。

「BGR」について

BGRを行うことでレポート課題などで構成がわかりやすくなると思うし決まったBGRという形ができるためレポート課題などが書きやすくなると思う。しかしそれにとらわれて無理にBGRで書こうというマインドになってしまう可能性があります。自分たちが作ってきた文章は汚いけどBGRで塗り分けようとおもえば塗り分けられるものがおおいのでそれらをわかりやすく並び変えどのような役割、機能があるかを知るという点においてすごくいい取り組みだと思います。理科の実験などをBGRであらわすことでこの段階ではこのことは言えないなど事象の段階わけ、どのような理由でその事象が起きたかが見えやすくなるから理解が容易になると思います。実際理科でやってみてこの時点ではこの物体は〇〇だとは言えないなどが視覚的にわかりやすくなったため理解しやすかったです。一番の課題点はBGRにとらわれすぎて課題の本質が見えにくくなる可能性があることです。あくまでBGRは課題の本質をわかりやすくするためのツールなので使いすぎはよくないと思う。

「BGR」について

各課題の整理・分析

学習者の振り返り

BGRを用いて自分の主張やある文章について整理すると、話をかたまりで読み取れるようになるため話の因果関係が結びつき、順序や繋がりが生まれる。そうすると改めて文章を「解釈」することができ、話の要点やそれに対応する事柄の効果について大枠を把握することに繋がる。

また、この操作は文章にまとめる能力を高める可能性を持つ。文章の話題が散らばらず、それを内容で括って順序性をつけることができるようになるからだ。何も考えずに文を作っていたものが、考えながら文を組み立てるようになるのも一つの理由である。

BGRは後から色を付けるか最初から色を考えるかという操作の順番によって分かるものが違う。国語でBGRの作業をした際はBGRという枠組みがあってそれに言葉をあてはめていく課題が多く、理科でBGRの作業をした際は文があり、それをBGRで分けていくという傾向があったという点で違いが見られた。前者が生み出すものとして、文全体をかたまり化する能力が挙げられる。初めからフォーマットが決まっているので、それにどう当てはめていくか脳内でかたまりに分ける作業が入る。後者は自分の文章の癖が分かる。例えば二つの結論があった時、自分の文章は事実→論拠→結論→事実→論拠→結論なのか、結論→事実→論拠→事実→論拠→結論なのかといった自分の文の傾向が目に見て取れる。そのためこの場合にはこういった構成でいくのが良いのか、などといった判断が良く取れるようになる。

「BGR」について

文章は、いくつかの文章のまとまりで構成される。そのまとまりがそれぞれの適切な機能を果たさず、全体としてわかりづらくなったり、伊美が通じていなかったりすることがある。文章において、「部分」の役割を理解せずにと書くと、「全体」に支障をきたすことがある。「『部分』の役割」を理解しないことは、文章において致命的な欠陥になりうるのである。

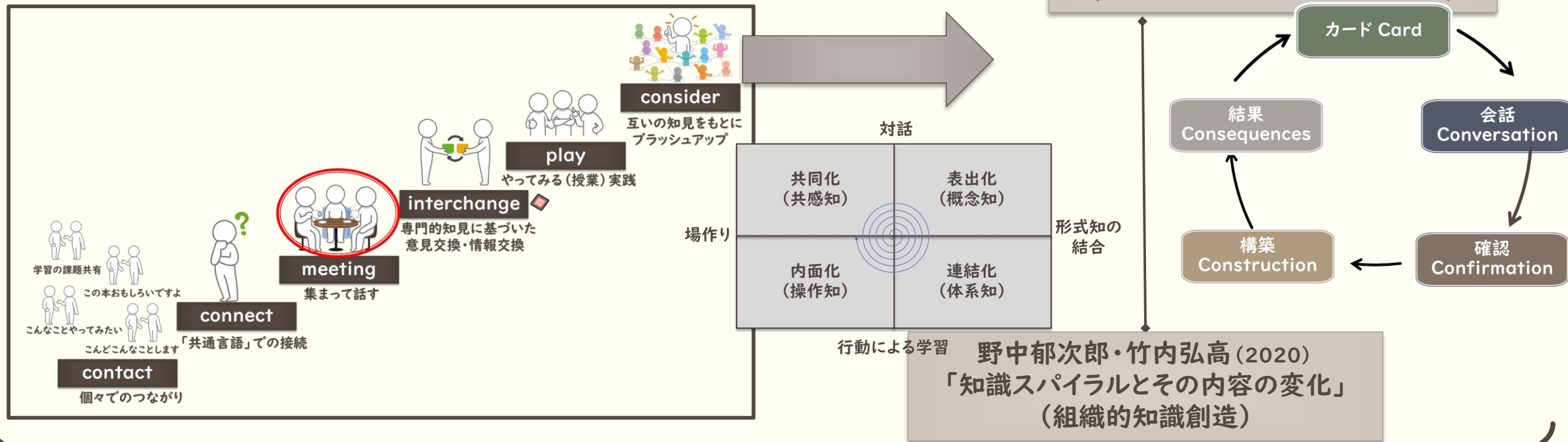
その欠陥は、フォーマルな文章であればあるほど許されない。また、実験のレポートなど、いわゆる「理科学的文章」における各「部分」の役割は非常に重要である。「部分」には、例えば「実験内容」「実験結果」「考察」「結論」などがある。その中で、「考察」にあたる事柄を「実験結果」に書いてしまったり、役割を理解しないと「間違った」文章になってしまう。

その点BGRの色分けは便利だった。各色に当たる内容を区別しその色を意識しながら文章を作ることで、適切な役割を持った「部分」で構成された、適切な「全体」ができあがった。また内容を色にわけてから内容を整理することで、文章化する際、どの順序で書けば伝わりやすい文章になるかを考えやすくなった。文章構成の面からも、よりよい文章を作成する手助けとして、BGRの取り組みは素晴らしいものであったと考える。

「BGR」について

各課題の整理・分析

2) 実践をもとにした横断的なプログラム開発過程の構造化



「創出」

各領域等で蓄積された経験を
「対話」をきっかけに構造化し、その活用を図る

「場」への着目

「対話」

「ストーリー」の共有

「蓄積」への着目

研究のまとめと課題

◆各教科・領域で蓄積された「実践知」や「知の体系」を踏まえ、 どのように効果的な接続を検討することができるか

➡ 反復・蓄積によって、主にアーギュメンテーションの側面から情報の質と結びつきの意識づけにつながり、アーギュメントスキル向上につながる効果が見られる

視覚化

構造化

◎ 各「要素」に対する働きかけがますます大きくなる。➡「ひとつつながり(文章)」(全体)への意識を高めることが次の課題
※理科的アプローチでは「書く」ことが意識されるため、「章立て」「項目立て」がイメージされている

- ◆国語一理科の連携において「読むこと」を切り口にしたアプローチの効果
- ◆BGRはフレームワークのように「固定化」されるものではないことの意識づけ
- ◆他の活動と連携していくことでの「文章全体への着目」

三角ロジックやトゥルミンモデルとの差異については、
「価値づけ」の部分にあるのではないか

※読」-「記術」-「口述」を連動させたアプローチを今後の課題とする

参考文献(資料中表記のないもの)

- Jeff Patton/川口恭伸(監訳)(2015)『ユーザーストーリーマッピング』オライリー・ジャパン
- 野中郁次郎/竹内弘高(2020)『知識創造企業(新装版)』東洋経済新聞社
- 古賀 史健(2021)『取材・執筆・推敲 書く人の教科書』ダイヤモンド社
- 坂本宗之祐(2022)『相手によって使い分けるロジカルな文章、情緒的な文章』クロスメディア・パブリッシング
- 鶴田清司・河野順子(2023)『論理的思考力・表現力を育てる 根拠・理由・主張の3点セット』を活用した国語授業浮造り』明治図書
- 中島博司(2023)『R80(アールエイティー) 自分の考えをパッと80字で論理的に書けるようになるメソッド』飛鳥新社
- 阿部幸大(2024)『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社
- 富田英司・丸野俊一(2004)「思考としてのアーギュメント研究の現在」
- 藤田剛志ほか(2015)「科学的思考力の育成に対するアーギュメントを取り入れた授業の効果」(『千葉大学教育学部研究紀要 第63巻』)
- 坂本美紀ほか(2012)「アーギュメント・スキルに関する基礎調査ー小学校高学年を対象としたスキルの獲得状況ー」(『科学教育研究 vol36 No3』)
- 渡邊裕,村上恭子,関野かなえ「学校図書館における「創出」と「学習センター」機能の向上の連環〜「ハブ」としての働きと「共通言語の発見」への着目から〜」(2024.9.24 令和6年度 日本学校図書館学会研究発表大会) ※当日発表資料より:各課題の整理・分析_2) 実践をもとにした横断的なプログラム開発過程の構造化